

宗教勧誘の女

ドツピュッ

由紀は生まれながらの
純潔を知った。

やり方が悪いただけなのよ……
まずは話をきいてもらって
それから。

グッ

真理の
ための

由紀はもう死
んだ。

ポヨソッ

ッ

ア





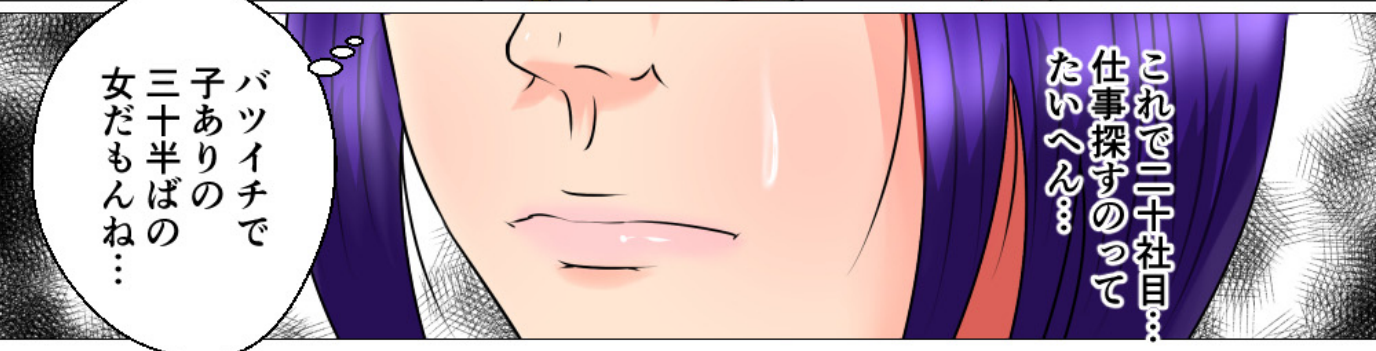
Booon



最寄り駅から
徒歩二十分の
古いマンションに
小学生の娘と
二人暮らしである。



徳宮由紀
三十四歳
バツイチ



来年は娘が中学に
上がるし、なにかと
物入りだし…

修学旅行の積み立て

電気代

通信費

家賃

ガス代

学費

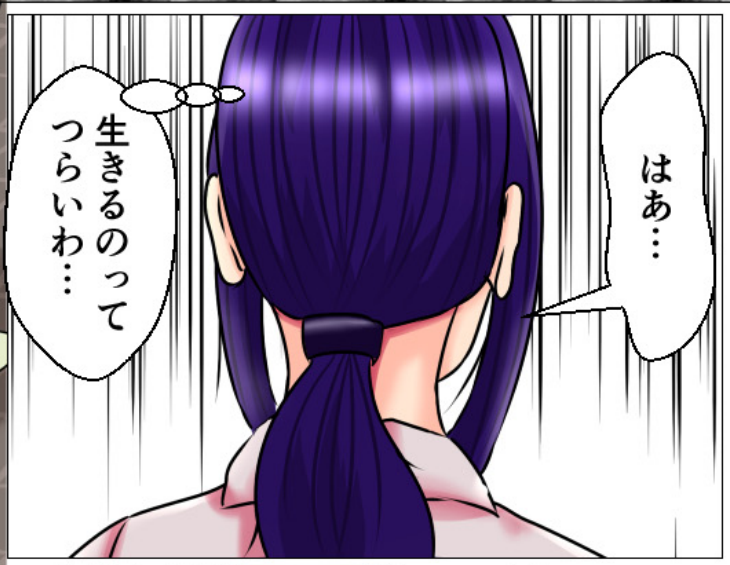
食費

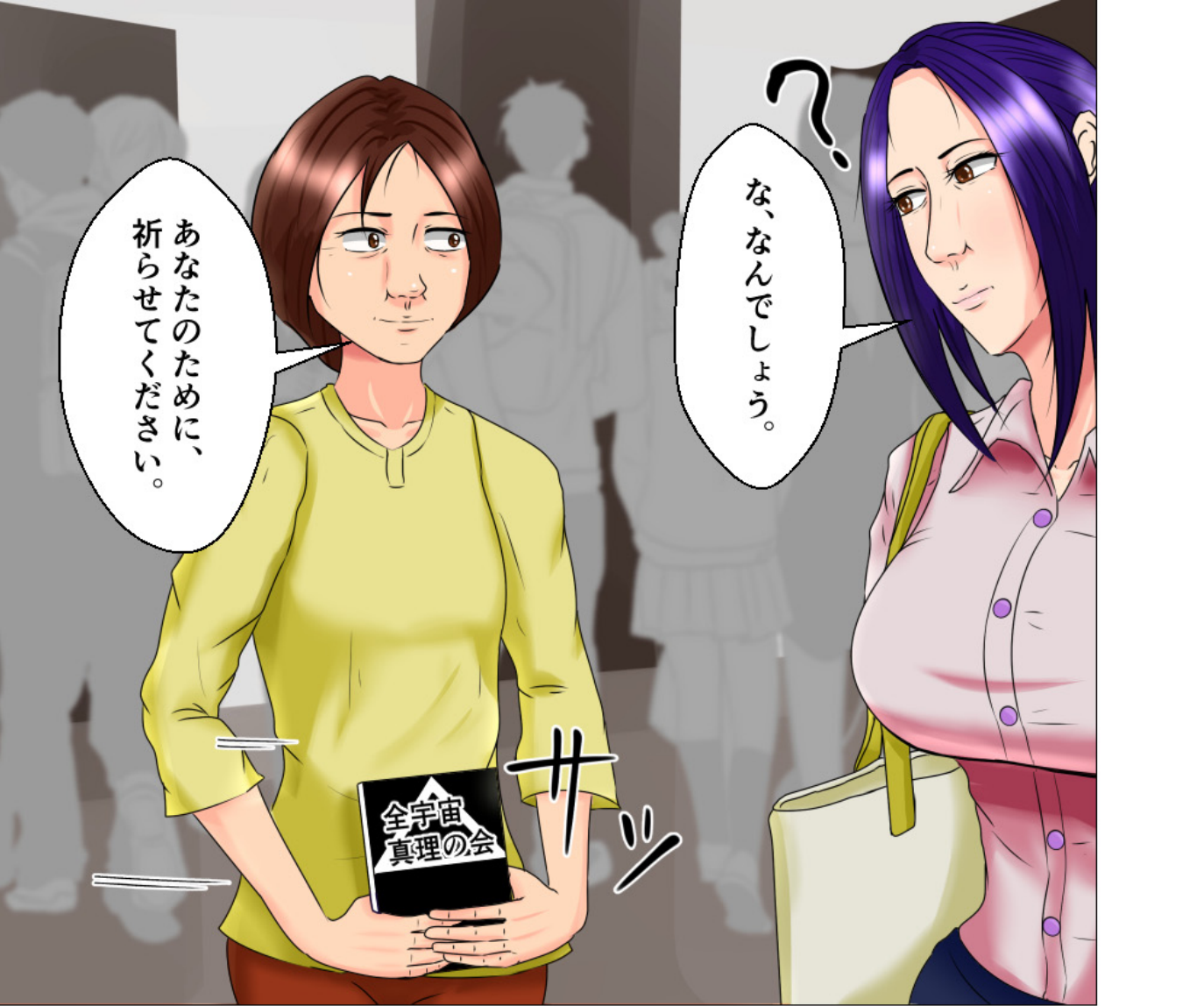
水道代

元夫が失踪し
養育費の振り込みも
途絶えており
経済状況は
良いとはいえなかった。

陰料

給食費





あなたのために、
祈らせてください。

?
な、なんでしょう。

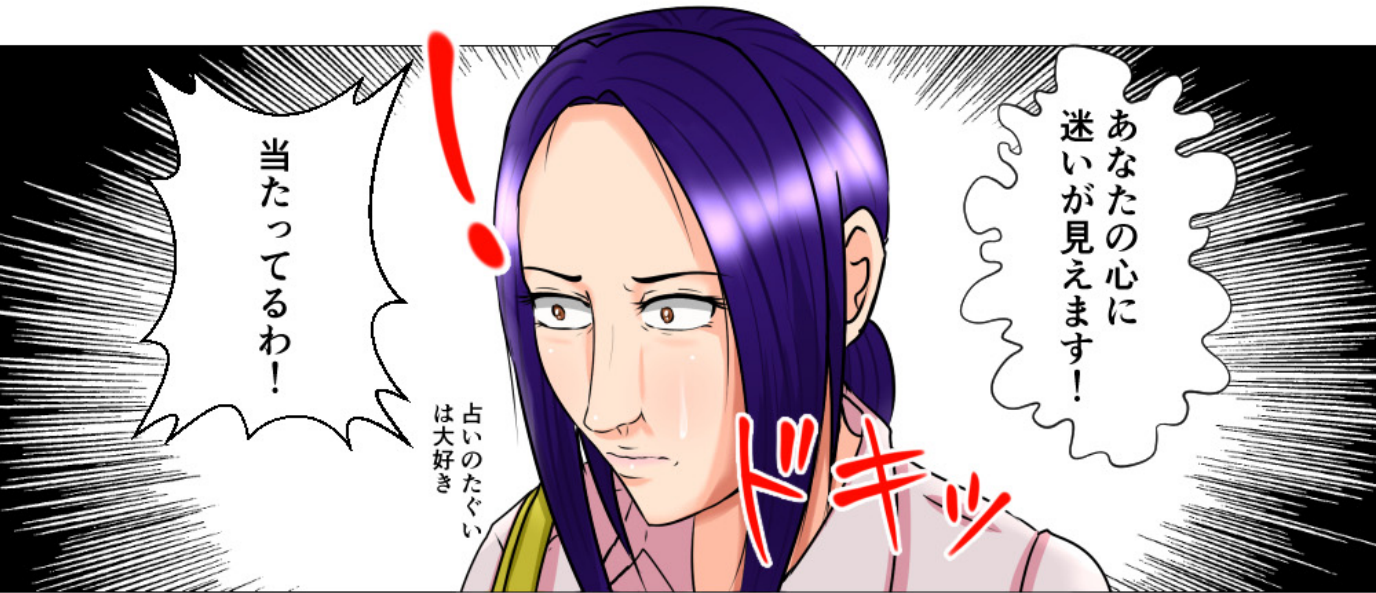
全宇宙
真理の会

サッ



それが、
由紀と宗教法人
「全宇宙真理の会」
との出会いだった。

びびり



あなたの心に
迷いが見えます！

当たってるわ！

占いのたぐい
は大好き

ドキッ

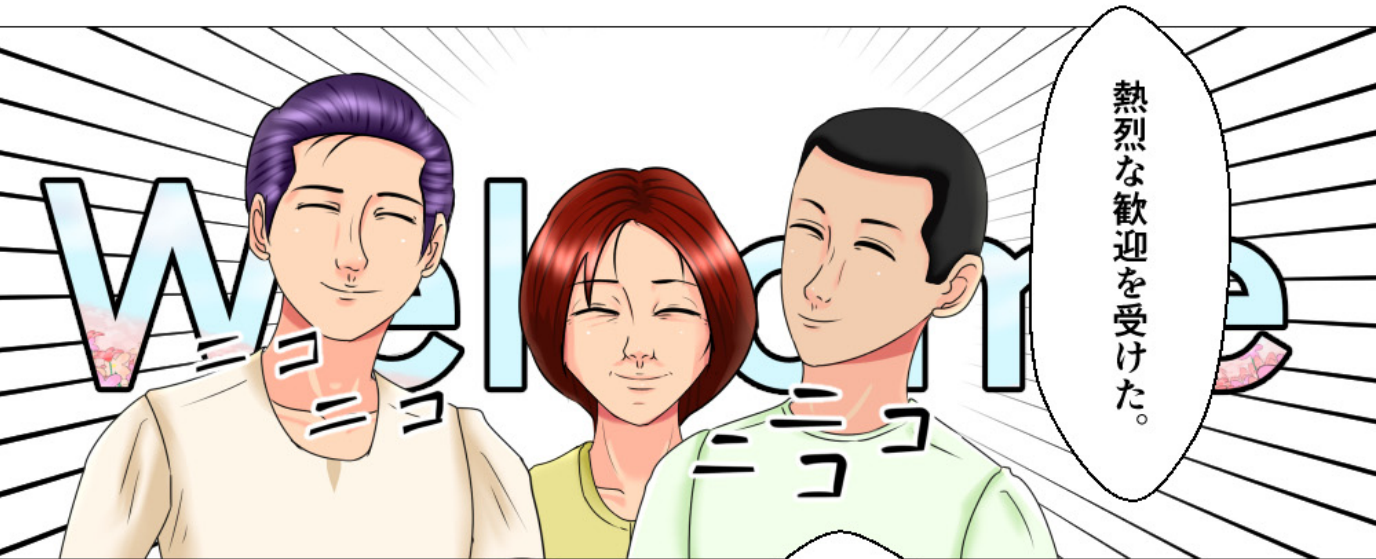


少しだけ話を
きいてみることにした。

まあ暇だし…



ファミレスで話した後
本部に連れて行かれた。



熱烈な歓迎を受けた。



彼女が職探しをしていることを伝えると――

うちで働いてみませんか？
ちようどいま
販売部で従業員を
募集していますよ！


入信が条件です。



彼女は深く考えることなく
入信申込書に
サインした。

宗教はおまけ。
あくまで仕事
が目的なんだから…

カキカキ



販売部での仕事は
楽しかった。

こちらの壺は

仕事は接客と
在庫管理その他。



彼女は頑張り
なんと
月間MVP賞を獲得。

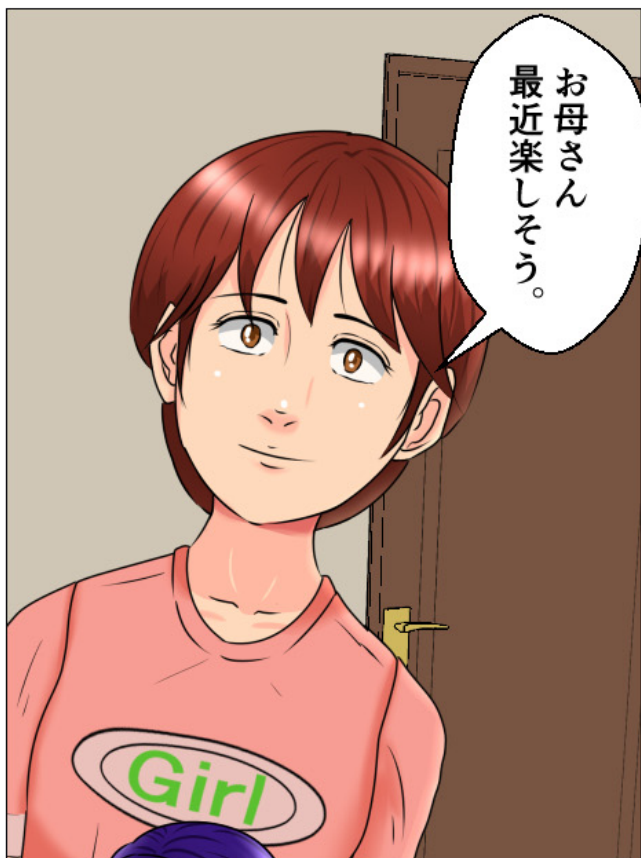
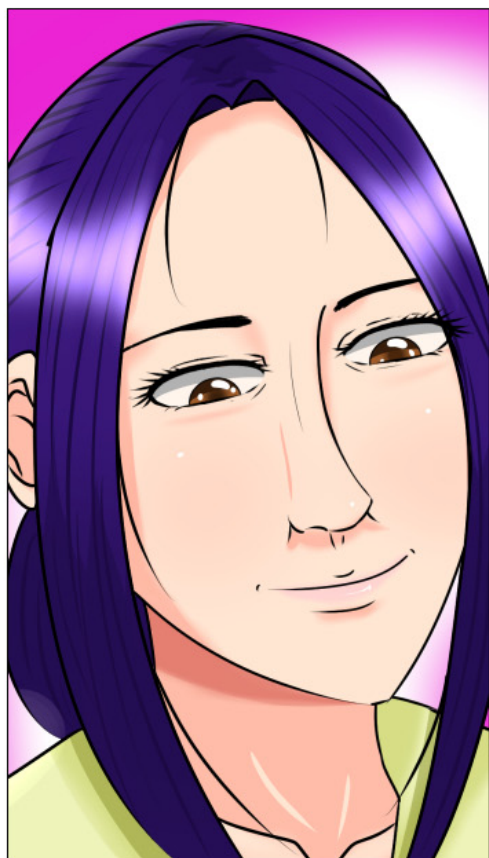
グル(指導者)からの
信頼も得た。

精進なさい。



修行も楽しかった。

嫌なことを
忘れることもできた。

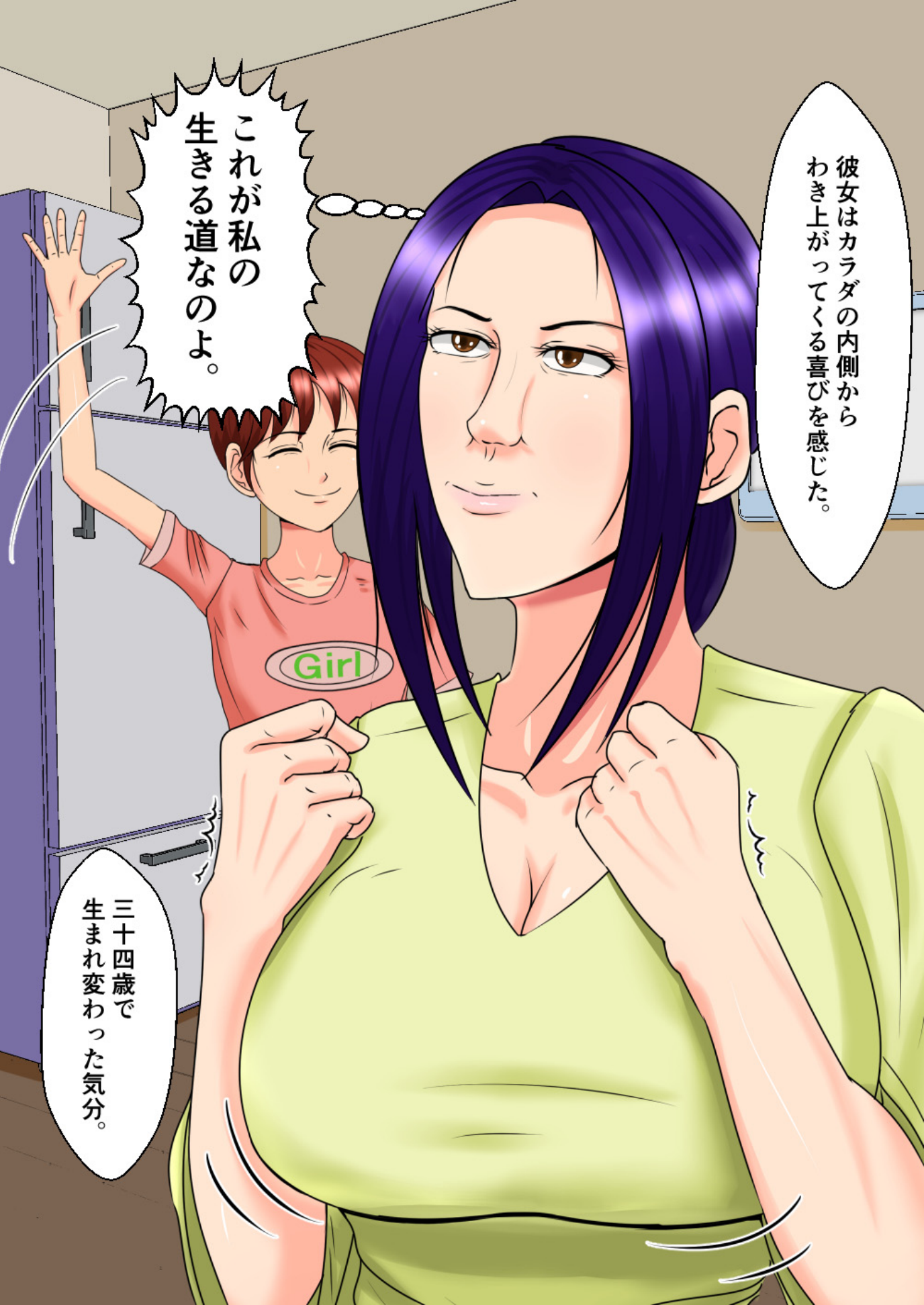


彼女はカラダの内側から
わき上がってくる喜びを感じた。

これが私の
生きる道なのよ。

Girl

三十四歳で
生まれ変わった気分。



徳宮君、信者獲得
期待しているよ。



支部長

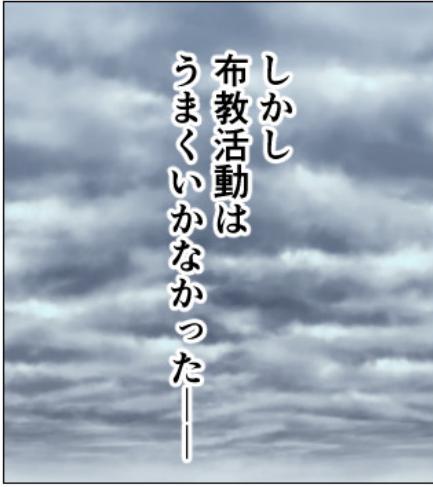


彼女はやがて、
宣伝部に異動した。



彼女は燃えていた。

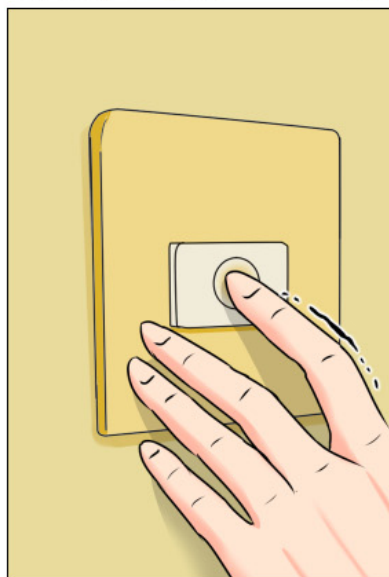
頑張ります！

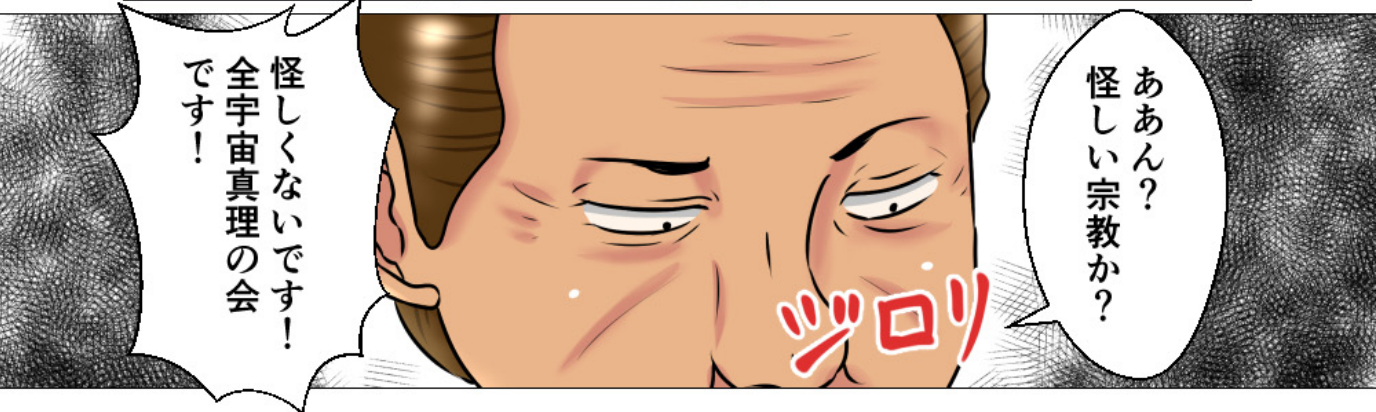
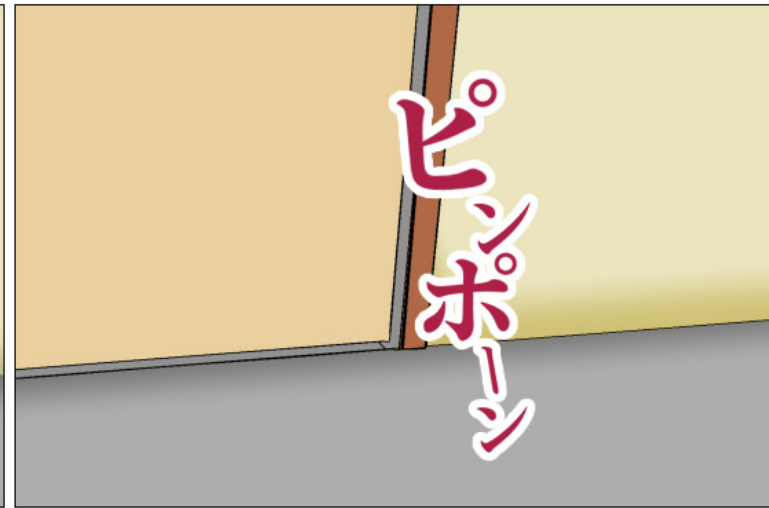
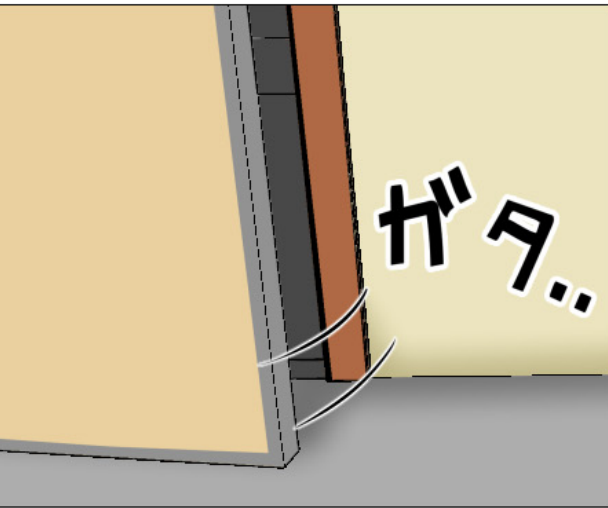


しかし
布教活動は
うまくいかなかった――



よし、信者を増やす！



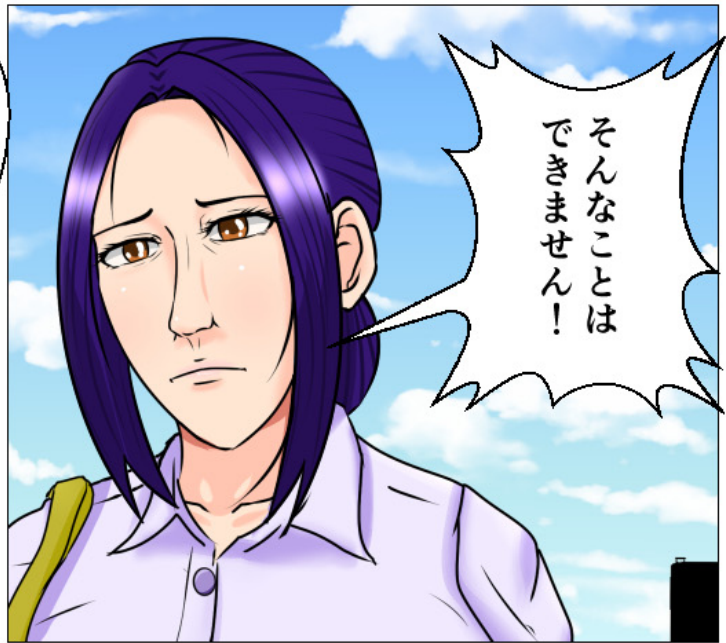




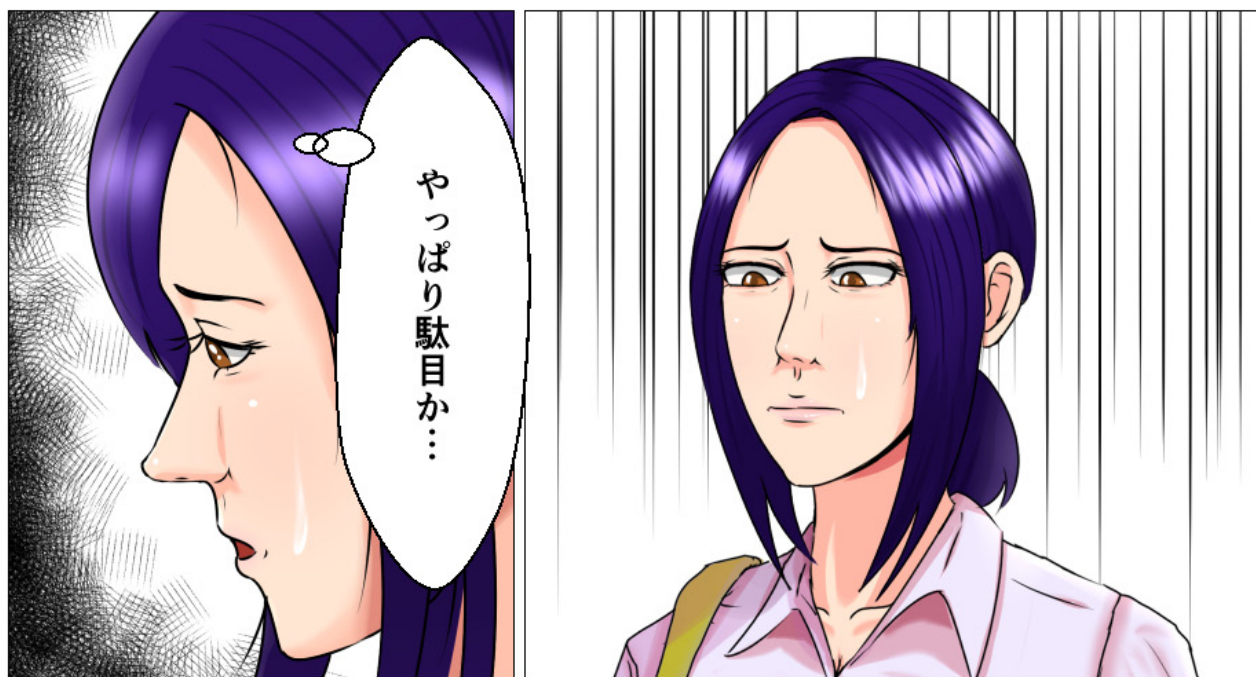
巨乳やなく
おっぱい見せてくれたら
話だけは聞いてもいいぜ。



じゃあ
用はない。



そんなことは
できません！



やっぱり駄目か...



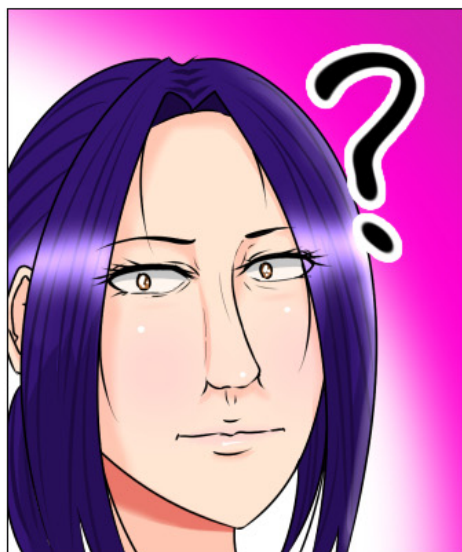
全宇宙真理の会



今月も
入信数ゼロか。

期待して
たんだけどねえ...

すみません...






すみません…

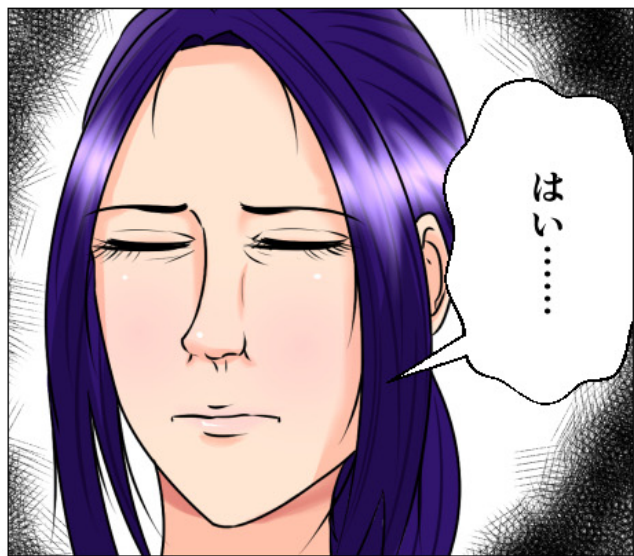


今月も入信者ゼロ？
真面目にやっているのか？


支部長 高山 晃司



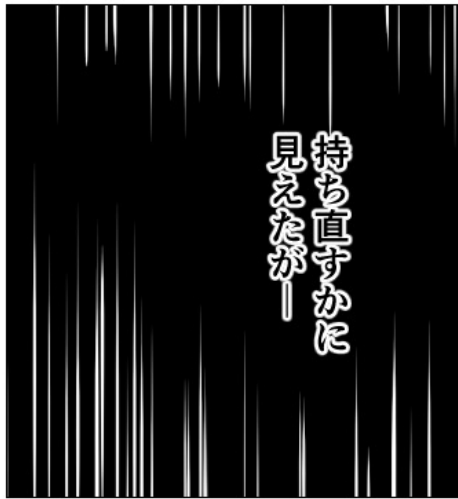
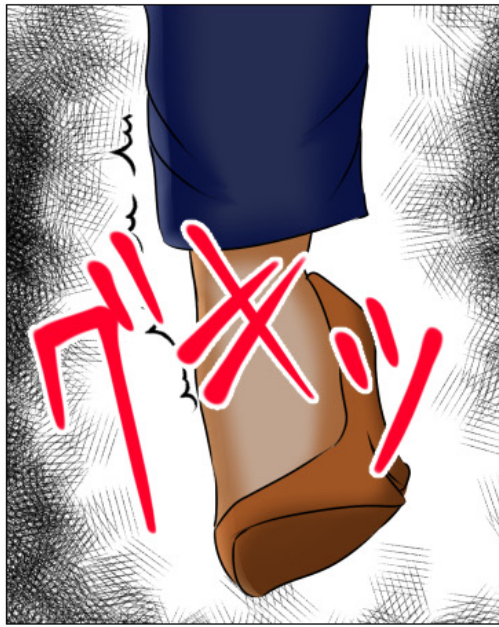
このまま信者獲得ゼロが続けば…
分かってるよね？
君の査定がどうなるか…。
慈善事業じゃないんだよ。
頑張ってもらわないと。



はい……



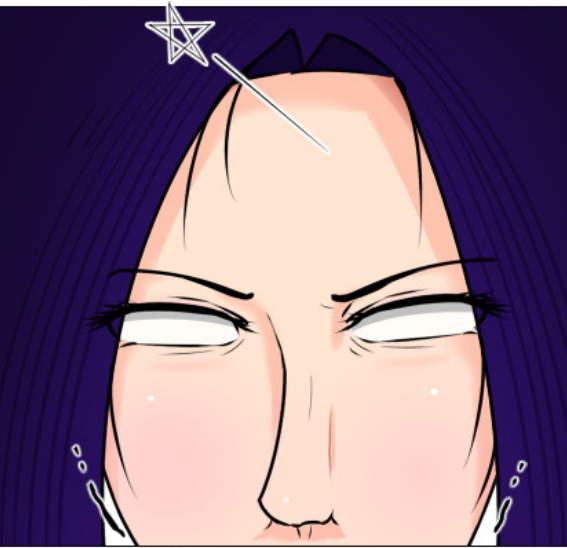
いきなり
入信させるんじゃ
なくて
まずは
話だけでもと
食い下がる
べきだわ。



由紀は頭部をドアに
打ち付けてしまった。

ドカッ



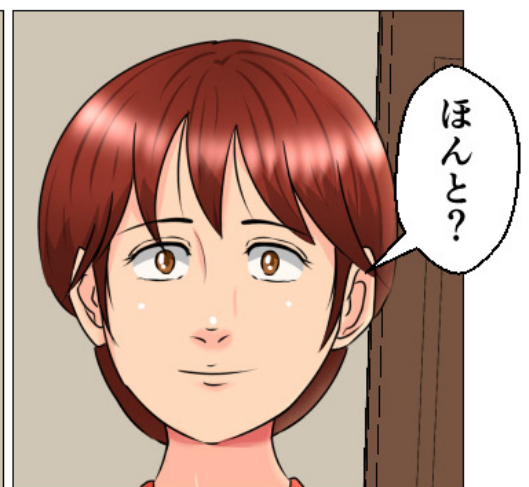
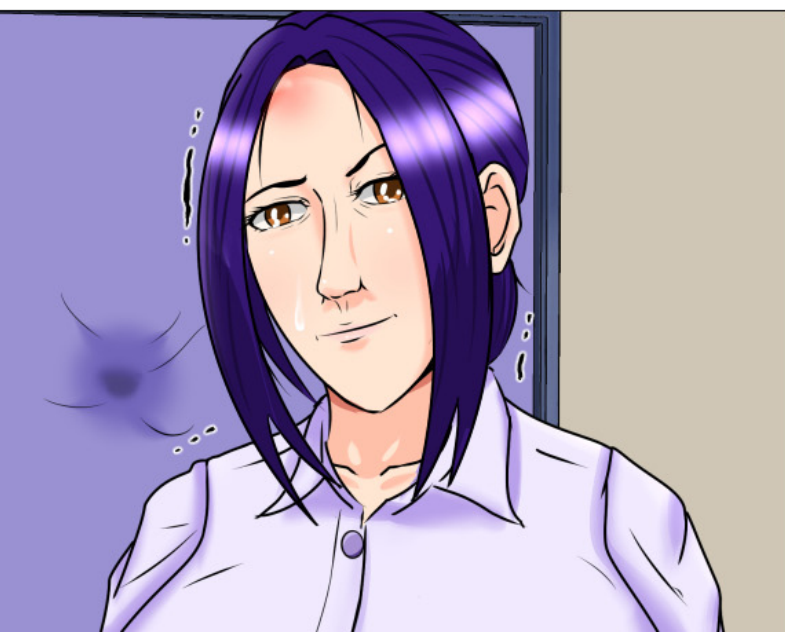


お母さん
大丈夫？



だ、だいじょうぶよ。

とても「大丈夫」と
いえる状態ではなかったが
娘に心配をかけたくなかった。



ほんと？



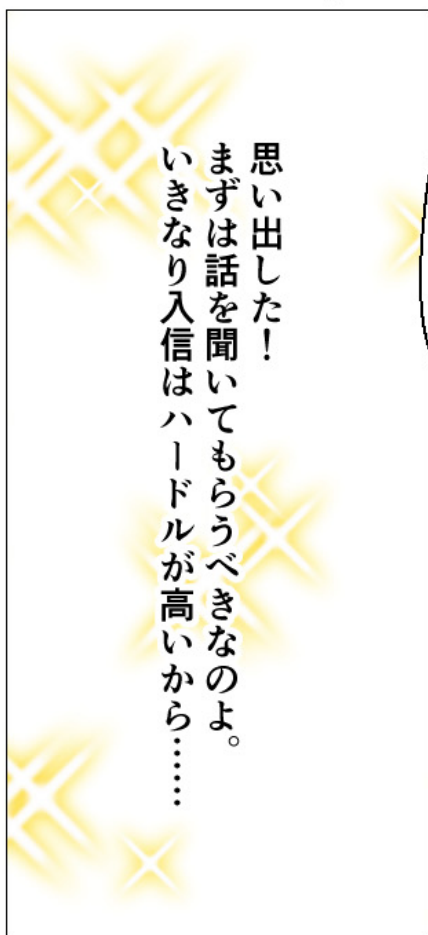
あれ……



気を取り直して
信者獲得に頑張りましょ。



腫れは二日ほどで引いた。



思い出した!
まずは話を聞いてもらうべきなのよ。
いきなり入信はハードルが高いから……



この前、
とても良いアイデアを
思いついたような……



頭を打ったことで
記憶力や知能も低下
していた。

……



もう一度、
あの男性に
トライしてみよう。



まずはお話だけでも
聞いてください。



またあんたか。
宗教には興味ないぜ。



話ねえ……
そんなに暇じゃねえし
あんたがそのでっかい
おっぱいでも
見せてくれるんなら
別だけど。

この人は
私の胸が見たい。

私はこの人に話を
聞いてもらいたい。

胸を見せるなら
この人は
話を聞いてくれる。

いいですよ。
胸でよければ
お見せします！

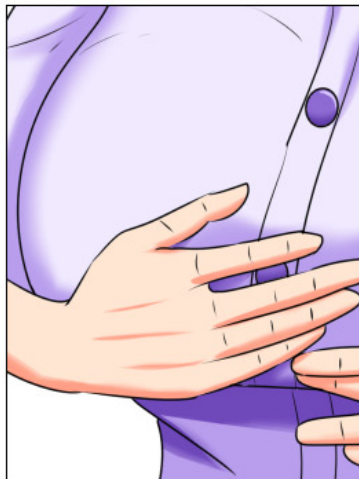
ま、まじ？





お、おれはよ、
入信するといったわけじゃねえぞ。
胸を見せてくれたら
話をきいてもいい、といったんだぞ。

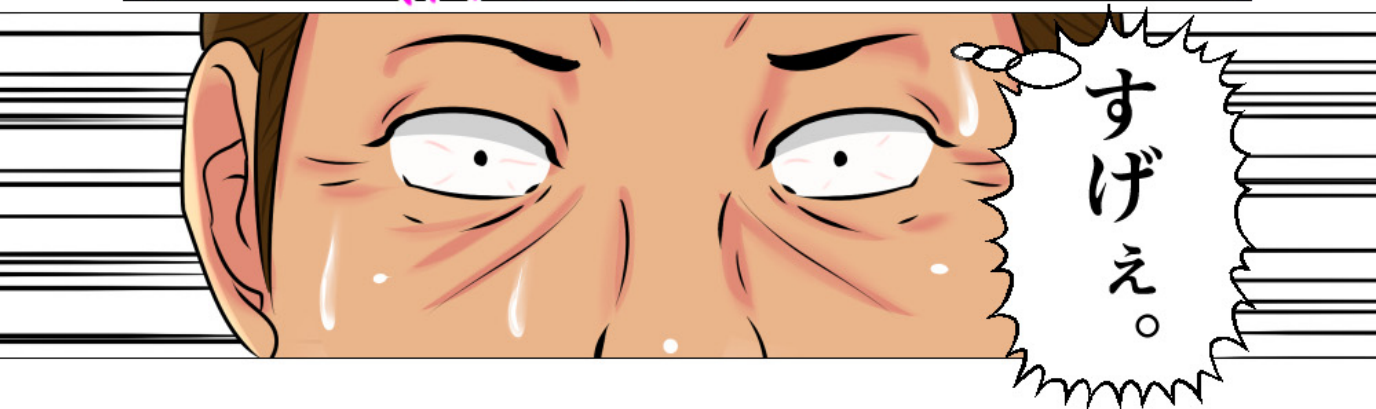
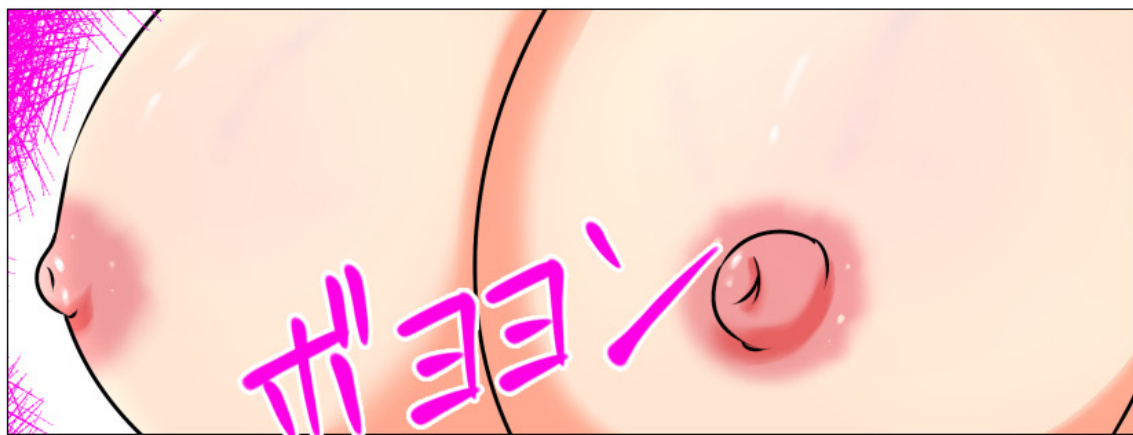
彼女は
男の部屋に
入った。

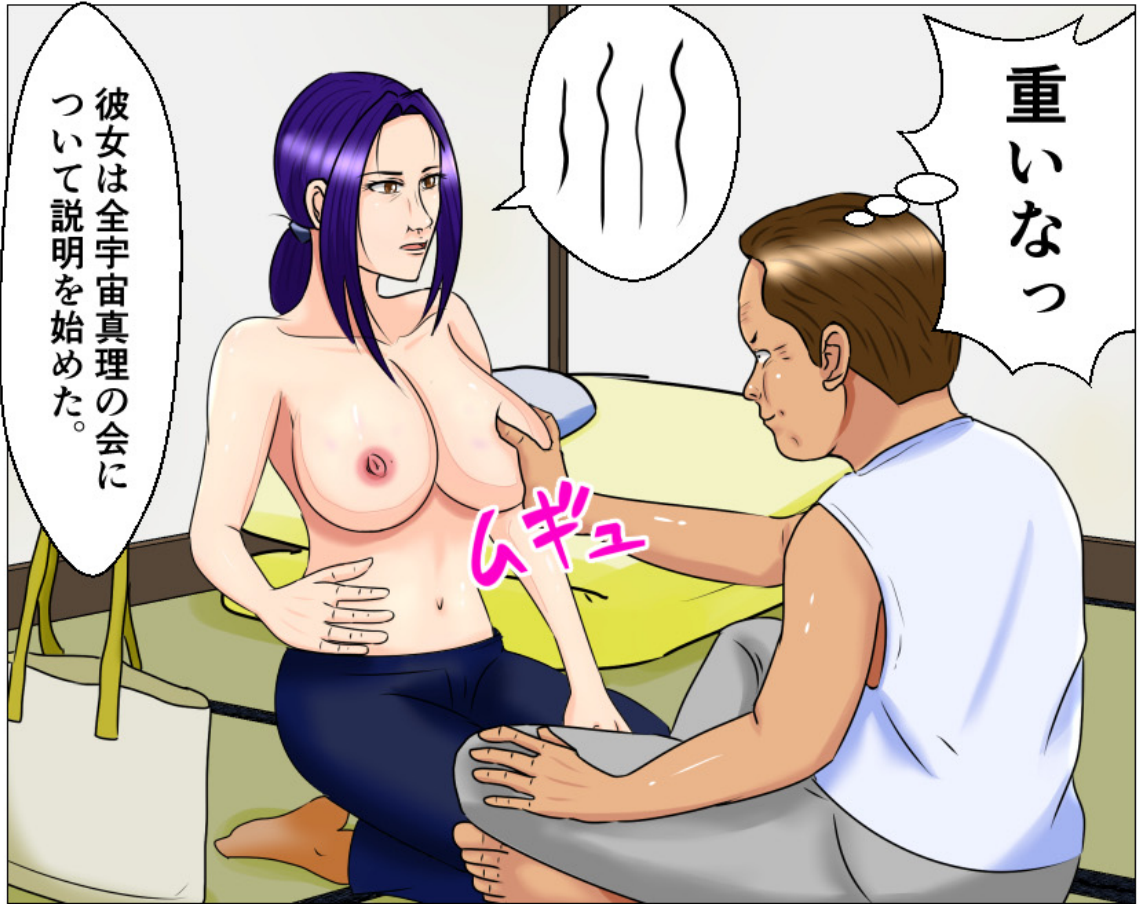


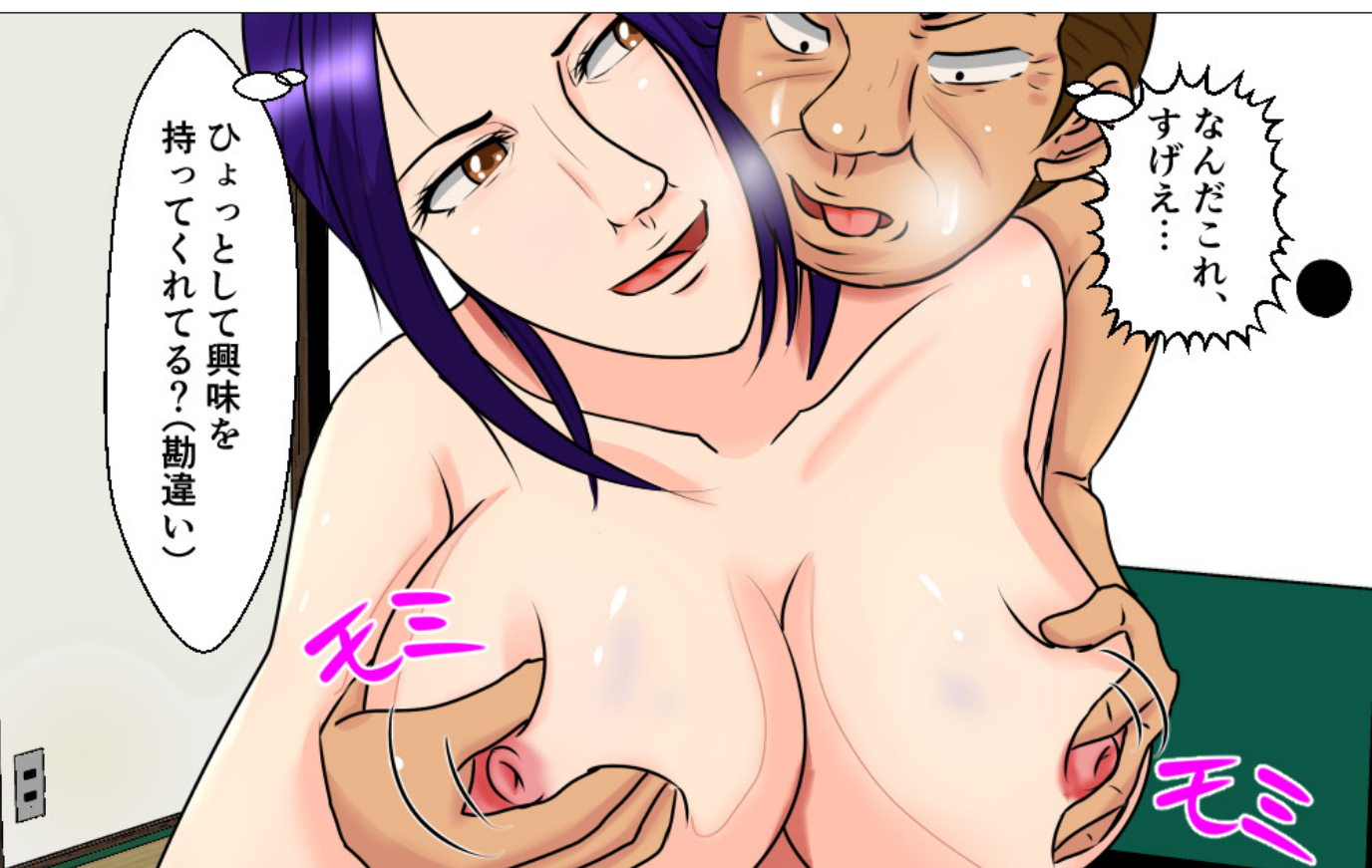
まずは
きっかけよ！



ええ。分かってます。
話を聞いてくれる
だけでも結構です。





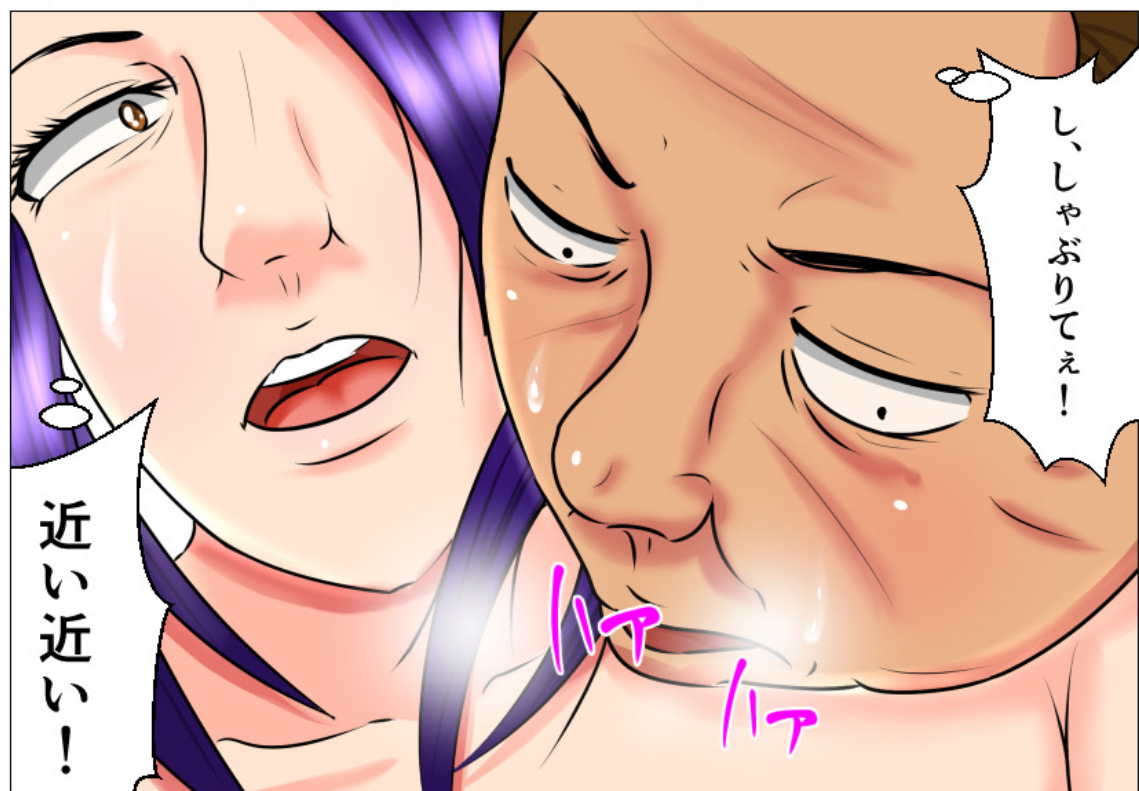


ひよっとして興味を
持ってくれてる？(勘違い)

なんだから、
すげえ...

ムニ

モニ

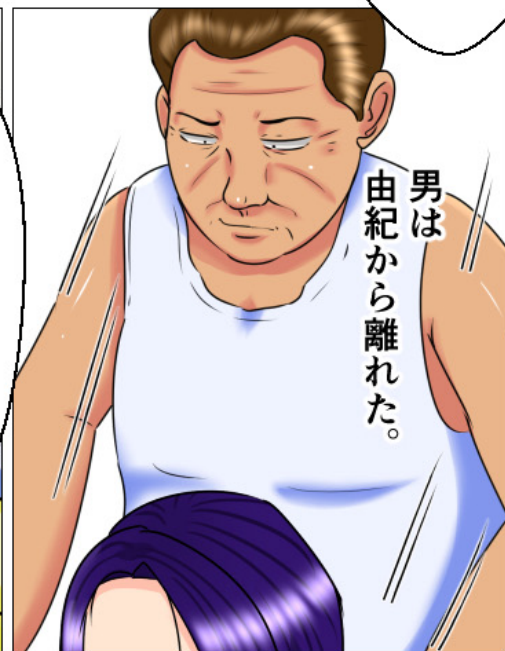


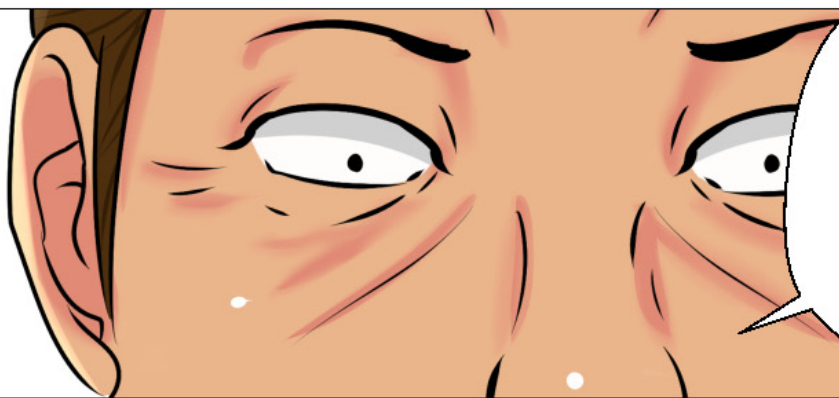
近い近い！

し、しゃぶりてえ！

ハア

ハア





あ、ああ。
けど、おれは
頭が悪いからよ。
あんたのいうこと、
難しすぎて……



彼女は帰った。



ち、ちよつとは
理解できるけど、
やっぱ一回じゃ
駄目だな。
ま、また来て
くれねえか。

分かりました！
また来ますね！



翌日、由紀は
再度男の元を訪れた。

体験版はここで終わりです。
続きは本編でお楽しみください。